

第 5 学 年

- 1 研究主題 「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」
— 学び合い高め合うための指導方法の工夫 —

2 育てたい力

◆表現力

- 考えたことや感じたこと，伝えたいことについて，意欲的に話したり書いたりする力
- 考えたことや感じたこと，伝えたいことについて，目的や意図に応じて効果的に話す力

◆コミュニケーション力

- 自分の考えや感じ方と比較しながら相手の話を聞き，意見や感想を進んで発表する力
- 互いの考えを認め合い，深め合うための話合いができる力

3 研究の視点と手だて

〔視点1〕 認め合い深め合うための指導方法の工夫

- 自分の考えを効果的に話すための指導
- 相手の考えを受け止め，学び合いに生かすための指導

〔視点2〕 児童の変容を見取るための評価の工夫

- 座席表の活用
- ノート指導の工夫
- 鑑賞カードの工夫

第5学年 成果と課題

昨年度、本学年は国語科「話す・聞く」の学習を通して表現力やコミュニケーション力を高めるよう実践を重ねてきた。それを踏まえて、今年度は表現力やコミュニケーション力によって教科学習の中で互いの学びを深めていくことができるような活動を設定していった。教科担任制で学習を行っていることもあり、それぞれが担当する教科において指導方法を模索していった。そこから、以下のような成果と課題が得られた。

<成果>

【視点1】 認め合い深め合うための指導方法の工夫

○視点を明確にして段階を追った学習の展開

	題 材	展 開
1組	理科「ふりこのはたらき」・・・実験	・個人での予想⇒小グループでの実験⇒全体での話し合い
3組	国語「わらぐつの中の神様」・・・読む	・一人読み⇒ペアでの対話⇒小グループでの話し合い⇒全体での話し合い
4組	図工「よく見てみよう」・・・鑑賞	・小グループでの話し合い⇒全体での話し合い

話し合いの視点を明確にすることで、どの教科も一人ひとりが問題意識をもって学習を行い、小グループでの実験や話し合いでは互いの考えを活発に交流させることができた。また、実験での気付きのメモ、読み取りでのノートへの書き込みが全体での話し合いでの発表に生かされ、多くの児童が発表することができた。

【視点2】 児童の変容を見取る評価の工夫

○座席表の活用

単元を通して、発言やノートへの記入の様子、実験に対する取り組み方などを座席表に記録し蓄積することは、児童の変容を見取り次の指導に生かしていく上で有効であった。

○ノート指導の工夫

自分の考えと友達の考えが明確に区別できるノートの使い方は、物語文を読み取るためのポイントとなる語句や友達の新たな考えに気付くことにつながり、児童の読み取りの変容を見取る上で有効であった。

○鑑賞カードの工夫

どの教科も通じて行っている、抽象的な言葉ではなく見たものを具体的に書くという指導の積み重ねもあり、感動を言葉で表すための視点を与えて鑑賞カードに書かせることは、発表が苦手の児童にとって有効であった。

<課題>

- 多くの支援が必要な学習や屋外での活動の場合など、学習活動の形態によっては座席表が使いにくい場合がある。活動形態によって使用しやすい評価を工夫していく必要がある。
- 学習の中でコミュニケーション活動を活性化させるためには、各教科の特性を十分に踏まえた上で指導計画を考えていかなければならない。